

## 平成29年12月議会一般質問

会派くらし・アイズ、草の根、倉吉自民共同の藤井隆弘です。  
今回は、震災からの復旧・復興と子育て・教育のまちづくりです。

### 1 震災からの復旧・復興について 震災から1年たって

10月21日(土)を中心に、鳥取県中部地震からの復興を願い様々なイベントが行われました。

震災からの復旧・復興は、復興計画に基づいた、市民に寄り添った着実な事業実施をお願いするところです。これまでも質問していることですが、改めてお聞きします。

- ①市としての振り返りのまとめはどうなっていますか。？
- ②震災を風化させないための来年度以降の取組、啓発、防災訓練等はどうなっていますか？

2000年に発生した鳥取県西部地震では結局きちんとした振り返りが出来ていない自治体があるとのことでした。そうしないためにも、今一度きちんとした取組をお願いします。

### 2 子育て・教育のまちづくり

○子育てに関わる国・県の動きについてです。

衆議院議員選挙後、幼児教育無償化や給付による奨学金制度等の話題が出てきています。

財源についても消費税増税の活用、企業の3000億の拠出といった断片的な情報は入ってきます。市民にとっても関心が高く、市の財政にも関わることです。次の2点についてお聞きします。

- ①保育の無償化、給付による奨学金 等子育てや教育に関わる国や県の動きについての情報提供をお願いします。
- ②倉吉市では今でも国の基準以上のサービスを行うため財源の持ち出しをしています。子育て無償化等のために、財政的なことも含め、倉吉市への影響があると思うのですが、どうなってくるのでしょうか？

国が重点課題として位置づけている政策です。倉吉市としてもしっかりと取組を進めていただきたいと思います。保育の質の確保、正規の保育士の割合を上げると行った課題もありますが、別の機会に取り上げることとし次に移ります。

## ○学校教育に関してです。

私は、愛知県の小学校をスタートに30年以上教育の道に携わりました。その間には小学校教諭、倉吉教育委員会勤務、小学校校長としてつとめました。議員となってからも教育福祉常任委員会に籍を置き教育や子育て・福祉に関わらせていただきました。このような経験も含めて、質問をさせていただきます。

学校教育の目的は、集団生活を通して、様々な学びの力をつけることです。そのための環境整備が必要となります。

・まず、ハード面の整備についてです。これまで、ハード面の整備についていろいろと質問・要望をしてきました。その結果、この4年間で学校の洋式トイレ設置率は、37%から90%となりました。また、河北中学校のグラウンドも安全なグラウンドになり、関金小・河北小の教室の間仕切りができ、落ち着いて学習する環境が整いました。

今後ハード面の整備として、主に次の2点に期待しています。

- ①空調の整備（空調が無い中で暮らしている状況。教室も避難所として使うことも想定されることになった。）
- ②グラウンドの改修（上北条小、西中など水はけが悪い学校がある。地域で使われることも多く、避難所機能としても大切）

今後の整備計画について答弁をお願いします。

・次にソフト面の整備です。このことについては3つの観点、1 倉吉の子どもたちの現状 2 教職員の配置と研修 3 学校教育予算から質問します。

これまで、ソフト面の整備に関してもいろいろと質問や要望をしてきました。その結果、小学校国語・算数診断テストの市費での全学年実施、金管バンド等の指導手当などが実現しました。

このような改善点を含め、大切なのは、子どもたちが確かな学びの力をつけることです。学びの力を見るためには様々な方法がありますが、客観的な数値が分かる最新の情報として（資料1）

- ・ 知育 ①全国学力・学習状況調査 ②国語・算数診断テスト
- ・ 徳育 不登校実態（市、国、県の出現率）
- ・ 体育 全国学校体力テスト（市、県、国）結果を見てみます。

アルファベットや数字が並んでいますが、水色がよい、黄色があまりよくないということです。この結果だけでは言い切れませんが、学力面、不登校面は余りよい結果とはいえません。診断テストでは東伯郡平均より下回っています。体力面では全国平均並みといった状況です。

1. 倉吉の子どもたちの知・徳・体の実態について、いくつかの調査結果を踏まえて、教育長の所見をお聞きします？

こどもと向き合い、こどもの力を伸ばす環境づくり、1日の大半を過ごす学習面の充実が大切です。全国・全県で一斉に行う知・特・体を含めた数字指標を見ていくことも必要だと考えます。

具体的には、子どもたちの実態を踏まえ、これからいくつかの観点で考えていきます。

教育は人なりという言葉があります。指導者の数とあわせ、教員一人一人の指導力を向上させることも大切です。資料裏面の一番上の表です。市内小中学校の国と県から給料が出ている県費負担教職員についてです。（資料2）

小学校では全体で194名のうち50代以上が53%です。中学校では約40%です。小学校では、退職者の増加に伴い20代の教員も13%と増えてきています。学校毎に見てみると、

●A小学校 9人。50台5人、40台3人、26歳1人（採用2年）

●B小学校 10人。50台5人、40台3人、39歳1人、25歳初任者といった学校もあります。

教職員一人一人の力をつけていくことが大切だと考えますが、

2. 教員の指導力アップはどのようにしているのですか。

初任者、1年目の教員は条件付採用ということで、国で決めた研修をきちんと受けることとなっています。しかし、定数内講師や若い教員をどう育てるかが現在の教育現場では課題です。

自分自身の体験を少しお話しします。私は企業勤務の後30近くで教員になりました。愛知県の小学校でしたが、児童数1200人、1学年5学級ありました。初任者が学校内に5名おり、校内での研修も学年会、教科部会とも数人いて様々なことを先輩教

員から学びました。こどもとの向きあい方、授業に対する考え方や実践、教室掲示、その他諸々です。

その後経験した初任者指導教員、学校長など現場での経験から、教員同士の切磋琢磨、現場教育が指導力向上といった面では大切だと考えます。

次に、学校教育に関する予算についてです。倉吉市では、学校教育の充実のために国の基準以上にお金を出しています。人の面では、少人数学級教員配置（18人 2800万 県が半分お金を出す）、語学指導等外国青年招致（ALT 4人 2000万）、複式学級解消教員配置（3人 1500万）、学校図書館司書配置（18人 4000万）、元気はつらつプラン事業（18人 2000万）などで学校教育課予算の57.4%を占めています。学校主事の人件費もいれると予算の多くが人件費となっています。お聞きします。

3. 少し漠然とした質問となりますが、倉吉市の学校教育予算について、全ての学校・子どもたちに教育効果が上がる予算となっていると思われませんか、改善したいと思っておられることはありませんか。教育長の考えをお聞きします？

限られた予算の中で、より効果的なお金の使い方、特に学ぶ力をつけるための教材や環境づくり、特色ある学校づくり（現在1校当たり8万円程度）にお金をかけていただきたいと思えます。

児童1人あたりにかかる経費は6万円から50万円と学校によってかなり違っているようです。いろいろと配慮は必要ですが、倉吉市で暮らす全ての子どもたちに学校規模や地域にかかわらず、より効果が上がるような予算となっているか見ていただきたいと考えます。特に市でお金を出しているALT、複式学級解消教員配置、元気はつらつプラン事業等について、どのような形が本当に効果が上がるのか教育委員会でも検討をお願いします。

○学校教育の環境整備、ハード面、ソフト面から質問してきました。これらのことも含めて学校再編に関連してお聞きします。学校再編に関する現状については昨日の質問で大体理解できました。今後の方向性について、協議会の持ち方に関連して、「教育委員会からの提案というよりは、地域から例えば分校方式も含めてテーブルに挙げていただければ持ち帰って検討する」という趣

旨の答弁がありました。今一度お聞きします。

4. 学校再編についての今後の方向性はどうか？  
学校再編について教育長はどう考えておられるのですか？

学校再編に関わり県内の状況を調べてみました。鳥取県学校便覧を県が毎年出しています。上から3番目の表です。平成29年度と10年前の小学校分について比較してみました。これを見ると、①10年間でいずれの市町も児童数が減っている。(鳥取県全体で4118人、倉吉市で356人。)

②10年間で学校が148-125と23校減った。八頭郡16-6, 日野郡12-4などが目立ちます。

③1校あたりの人数は224人から232人に統合で増えています。東伯郡と10年前は202人と204人とほぼ同じだったが現在は190人と227人となっています。

また、県内の小規模(複式学級対象)校の実態についてどうなっているか尋ねましたら「複式学級対象校は15校、複式学級解消加配は14名(複数者配置校あり)」ということでした。

学校便覧から推測すると、15校は鳥取市:7校\*(鳥取市で給料を払っている)市支弁教員配置、境港市:1校、西伯郡:2校(いずれも複式学級×2)、日野郡:1校)、倉吉市:2校=県費負担教職員配置(一人500万円)、東伯郡:2校=県費負担教職員配置(一人500万円)となっていると思います。

複式対象となっている境港市の誠道小学校や三朝町の東・南小学校では近隣の3小学校の再編の動き、湯梨浜町での中学校を一つにする動きがあります。

このような状況を教育長はご存じですね。次の質問とも関わってきますので、もしコメントがあれば後でお願いします。

昨日も少しふれられましたが、倉吉市の学校再編に関しては、「明日の倉吉の教育を考える委員会」提言、「学校教育審議会」答申から始まっています。お聞きします。

5. 「明日の倉吉の教育を考える委員会」と「学校教育審議会」についての内容とそこで議論となったポイントにはどのようなものがあつたのですか？

6. 私は、学校再編することが目的で無く学校再編を通して子どもたちの健やかな成長、学校教育のあり方をトータルで考えていかなければならないと思っています。

倉吉市ではここ何年間か学校再編について関心が高く、知徳体のバランスのとれたこどもの育成、学校のソフト面の充実に関心が薄くなっていた気がします。教育長の考えをお聞きします。

○教育の倉吉モデルについてです。

大人の責任として、倉吉の子どもたちに学びの力をしっかりつけ、健やかな成長を保証していかなければなりません。そのために、学校教育先進地域の取組に学ぶことも大切です。

秋田県、福井県、石川県などが先進地といわれます。一番下の表をご覧くださいと分かるように、学力・不登校、体力テストなどの結果から上位に位置する項目が多いです。

教育長をはじめ、教育委員会の職員さんも視察に行かれたり、本を読んで研究されているようです。倉吉の学校教育にとって今が大切な時です。

学校教育審議会、教育委員会等で次の点について取組をお願いします。

1. 教師のさらなる指導力アップ。

校内研修や教育委員会による指導は行われていますが、小規模校が多く校内体制が手薄だったり、モデルとなる先輩教師が少ない、教師1人あたりの校務分掌が多い等の状況を踏まえ授業力を中心とした指導力向上をお願いしたい。また、先進地の事例も参考に、取組を進めていただきたい。

2. 教育関係団体との連携、特に学力・生徒指導の研修。

小学校では、市初研（学年部）、中小研（教科部）、中学校では中教振、また、中学校区の教員のつながりを活かした研修を今一度進めていただきたい。

3. 長期休暇等のあり方の検討。

学ぶ力の効果的な指導、教職員の職務改善、働き方改革も含め、長期休業（特に夏期休業）、学校二期制、休業日の分散等について検討をお願いしたい。

4. 校区に関する検討。

通学距離・安全性、友人関係、学校規模や特色を考慮した校区

について、隣接区学校選択制等も含めて検討をお願いしたい。

5. 教職員の多忙化改善

6. 上記項目と学校再編との関連を検証すること

6. 以上のような観点からも、教育の倉吉モデルの開発と実践が必要であると思うが、いかがお考えでしょうか？

最後の質問です。平成27年4月から、首長と教育委員会により構成され、地域における教育行政の指針となる大綱を策定し、市長と教育委員会とで年に2度ほど会議をもたれています。総合教育会議です。

7. これまでの質問・答弁をお聞きになり、教育総合会議を主催されている市長の学校教育に関する見解をお伺いします。